

平成 3 1 年度改善計画（案）

【函館市生活交通路線のうち平均乗車密度が 5 人未満の路線】

- 1 下海岸線②（9 1 E 系統） 1 ～ 2 ページ
- 2 下海岸線③（9 1 F 系統） 3 ～ 4 ページ
 - 運行系統図 5 ページ
 - 停留所別乗降データ 6 ～ 7 ページ
- 3 鹿部海岸線②（2 2 4 系統） 8 ～ 9 ページ
 - 運行系統図 1 0 ページ
 - 停留所別乗降データ 1 1 ページ

函館バス株式会社

I 改善計画案（事業者が記載）

1 路線の概要

路線名：下海岸線②（91E系統）（運行実績期間：H29.10～H30.9）

運行系統					運行ダイヤ				
起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	実車走行 キロ (km)
日ノ浜 団地	海向山	榎法華 支所前	7.5	400	10:46 10:22	18:04 18:21	12	3.4	18,900.0

輸送実績		経常費用 (円)	経常収益 (円)	費用－収益 (円)	補助見込額
平均乗車 密度	輸送量	(A)	(B)	(A)－(B)	(千円)
1.8	6.1	5,469,471	2,230,705	3,238,766	限度額 2,461,000

資料：運行系統図

2 路線の収支および補助額の推移（過去3カ年）

区 分	前々年度	前年度	当年度
経常費用 (A) (円)	6,758,721	5,446,503	5,469,471
経常収益 (B) (円)	2,836,571	2,267,955	2,230,705
(A)－(B) (円)	3,922,150	3,178,548	3,238,766
補助金額 (千円)	3,041,000	2,450,000	2,461,000
運行実績期間	H27.10～H28.9	H28.10～H29.9	H29.10～H30.9

3 路線の維持、必要性の検討

(1) 代替性

① 重複および近接する路線 有 ・ (無) → (2) 機能性・需要量へ

② 重複および近接する路線の概要

路線名	運行系統				運行ダイヤ				輸送実績	
	起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	平均乗車 密度 輸送量

(2) 機能性・需要量

① 路線沿線の施設（学校、病院、公共施設、商業施設等） (有) ・ 無 → (3) 地域振興へ

② 路線沿線の主な施設

恵山支所・榎法華支所

③ 平均乗車密度の推移（過去3カ年） (人)

区 分	前々年度	前年度	当年度
平均乗車密度	1.8	1.8	1.8
運行実績期間	H27.10～H28.9	H28.10～H29.9	H29.10～H30.9

資料：停留所別乗降データ（調査日：平成30年9月14日）

(3) 地域振興

戸井支所，恵山支所，榎法華支所，南茅部支所の所管区域の経由 (有) ・ 無

4 収支改善のための具体的な方策

(戸井支所、恵山支所、樫法華支所、南茅部支所の所管区域を経由する路線については必要に応じて記載。)

- 当該路線については、一部、函館駅方面から恵山までの広域的な路線と接続し、樫法華に行く系統であるため、見直す際には、総体的に見直す必要がある。
- 東部地区の病院バス・温泉バス等の路線バス化については、函館市が策定を予定している地域公共交通再編実施計画の中で検討が進められることとなっている。

<利用促進策として>

- ①平成30年4月より、既存の定期券がICAS nimoca (ICカード) を利用したものに切り替わるにあたり、新聞折込のタブロイド誌発行のほか、学校等関係機関への周知活動を図り利用促進を図った。引き続きICAS nimocaの地域に対する周知活動は継続していく。
- ②函館市の交通料金助成制度が平成30年4月より、ICAS nimocaを利用した制度へ移行するにあたり、函館市と協力し、地域への説明会及びICAS nimocaの販売を実施した。
- ③夏休み・冬休み期間中、1乗車につき小学生は50円、中学生は100円で利用できる乗車券「バス冒険キング」の適用範囲を従来の函館市内限定から、平成29年冬休みより、函館市・北斗市・七飯町・鹿部町へと拡大しさらなる利便性向上を図った。
- ④北海道新幹線新駅沿線協議会(函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・JR北海道・函館市企業局・津軽海峡フェリー・函館バス)発案の『はこだて旅するパスポート』(JR・函館市電・道南いさりび鉄道・函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・木古内町管内の路線バスが2日間乗り放題の共通フリー乗車券 ※津軽海峡フェリーはパスポートを提示すると20%割引)を販売し、観光客のバス利用の促進を図っている。平成30年4月からは利用期間がこれまでの2日間用に加え、新たに1日間用の乗車券も販売開始しさらなる利用者の利便性の向上を図った。
なお、『はこだて旅するパスポート』のパンフレットには、東部地区の路線バスで行くモデルコースも掲載されている。
- ⑤外国人の利用促進策として、アジア向け観光ウェブサイト「悠々北海道」に路線バス情報を発信しているほか、上記に記載のとおり全国共通ICカードシステムを導入した。さらに平成30年3月には、新たに英語対応ができるバスロケーションシステム(バスの接近情報がわかるシステム)に更新しさらなる利便性向上を図った。なお、新たなバスロケーションシステムは、すべてのスマートフォンで見やすく表示できるよう対応し、さらに、函館バス同士での1回乗継ぎが発生する場合の接近情報も見ることが可能となっている。
- ⑥平成31年2月より、道内19社共同で外国人観光客に向けた『北海道バジェットバスパス』が販売される。道内広域で高速バスを含めた指定路線バスが乗り放題となり3日間用と5日間用がある。当路線でも使用することができ外国人観光客の利便性の向上を高める。
- ⑦公共交通網の構築の実現に向けたバス路線網再編の一環として、系統番号の見直しを平成31年4月に実施する。方面別で法則性のある番号がこれまで系統番号のなかった系統を含めすべての系統に振られる。このことによりバスの番号を見るだけで方面がわかり外国人観光客へも番号でバスを案内できるようになる等利便性の向上が図られる。

改善しない場合の理由

()

Ⅱ 函館市生活交通協議会における協議 (市が記載)

① 収支改善のための具体的な方策への意見等

② 路線維持・補助の必要性について

必要性 有 ・ 無



()

Ⅲ 改善計画 (事業者が記載)

① 函館市生活交通協議会の意見に対する事業者の検討結果

② 実施日

()

I 改善計画案（事業者が記載）

1 路線の概要

路線名：下海岸線③（91F系統）（運行実績期間：H29.10～H30.9）

運行系統					運行ダイヤ				
起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	実車走行 キロ (km)
日ノ浜 団地		恵山御崎	6.3	350	8:00 18:25	—	17	0.9	4,498.2

輸送実績		経常費用 (円)	経常収益 (円)	費用－収益 (円)	補助見込額	
平均乗車 密度	輸送量	(A)	(B)	(A)－(B)	(千円)	
0.8	0.7	1,301,734	224,348	1,077,386	限度額	585,000

資料：運行系統図

2 路線の収支および補助額の推移（過去3カ年）

区 分	前々年度	前年度	当年度
経常費用 (A) (円)	1,261,627	1,233,108	1,301,734
経常収益 (B) (円)	216,427	214,658	224,348
(A)－(B) (円)	1,045,200	1,018,450	1,077,386
補助金額 (千円)	567,000	554,000	585,000
運行実績期間	H27.10～H28.9	H28.10～H29.9	H29.10～H30.9

3 路線の維持、必要性の検討

(1) 代替性

① 重複および近接する路線 有 ・ (無) → (2) 機能性・需要量へ

② 重複および近接する路線の概要

路線名	運行系統					運行ダイヤ				輸送実績	
	起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	平均乗車 密度	輸送量

(2) 機能性・需要量

① 路線沿線の施設（学校、病院、公共施設、商業施設等） (有) ・ 無 → (3) 地域振興へ

② 路線沿線の主な施設

恵山支所

③ 平均乗車密度の推移（過去3カ年） (人)

区 分	前々年度	前年度	当年度
平均乗車密度	0.8	0.8	0.8
運行実績期間	H27.10～H28.9	H28.10～H29.9	H29.10～H30.9

資料：停留所別乗降データ（調査日：平成30年9月14日）

(3) 地域振興

戸井支所、恵山支所、榎法華支所、南茅部支所の所管区域の經由 (有) ・ 無

4 収支改善のための具体的な方策

(戸井支所, 恵山支所, 榎法華支所, 南茅部支所の所管区域を経由する路線については必要に応じて記載。)

○東部地区の病院バス・温泉バス等の路線バス化については、函館市が策定を予定している地域公共交通再編実施計画の中で検討が進められることとなっている。

＜利用促進策として＞

- ①平成30年4月より、既存の定期券がICAS nimoca (ICカード) を利用したものに切り替わるにあたり、新聞折込のタブロイド誌発行のほか、学校等関係機関への周知活動を図り利用促進を図った。引き続きICAS nimocaの地域に対する周知活動は継続していく。
- ②函館市の交通料金助成制度が平成30年4月より、ICAS nimocaを利用した制度へ移行するにあたり、函館市と協力し、地域への説明会及びICAS nimocaの販売を実施した。
- ③夏休み・冬休み期間中、1乗車につき小学生は50円、中学生は100円で利用できる乗車券「バス冒険キング」の適用範囲を従来の函館市内限定から、平成29年冬休みより、函館市・北斗市・七飯町・鹿部町へと拡大しさらなる利便性向上を図った。
- ④北海道新幹線新駅沿線協議会(函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・JR北海道・函館市企業局・津軽海峡フェリー・函館バス)発案の『はこだて旅するバスポート』(JR・函館市電・道南いさりび鉄道・函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・木古内町管内の路線バスが2日間乗り放題の共通フリー乗車券 ※津軽海峡フェリーはバスポートを提示すると20%割引)を販売し、観光客のバス利用の促進を図っている。平成30年4月からは利用期間がこれまでの2日間用に加え、新たに1日間用の乗車券も販売開始しさらなる利用者の利便性の向上を図った。
なお、『はこだて旅するバスポート』のパンフレットには、東部地区の路線バスで行くモデルコースも掲載されている。
- ⑤外国人の利用促進策として、アジア向け観光ウェブサイト「悠々北海道」に路線バス情報を発信しているほか、上記に記載のとおり全国共通ICカードシステムを導入した。さらに平成30年3月には、新たに英語対応ができるバスロケーションシステム(バスの接近情報がわかるシステム)に更新しさらなる利便性向上を図った。なお、新たなバスロケーションシステムは、すべてのスマートフォンで見やすく表示できるよう対応し、さらに、函館バス同士での1回乗継ぎが発生する場合の接近情報も見ることが可能となっている。
- ⑥平成31年2月より、道内19社共同で外国人観光客に向けた『北海道バジェットバスパス』が販売される。道内広域で高速バスを含めた指定路線バスが乗り放題となり3日間用と5日間用がある。当路線でも使用することができ外国人観光客の利便性の向上を高める。
- ⑦公共交通網の構築の実現に向けたバス路線網再編の一環として、系統番号の見直しを平成31年4月に実施する。方面別で法則性のある番号がこれまで系統番号のなかった系統を含めすべての系統に振られる。このことによりバスの番号を見るだけで方面がわかり外国人観光客へも番号でバスを案内できるようになる等利便性の向上が図られる。

改善しない場合の理由

()

II 函館市生活交通協議会における協議 (市が記載)

① 収支改善のための具体的な方策への意見等

② 路線維持・補助の必要性について

必要性 有 ・ 無



()

III 改善計画 (事業者が記載)

① 函館市生活交通協議会の意見に対する事業者の検討結果

② 実施日 ()

運行系統図

- 下海岸線②（9 1 E 系統）
（日ノ浜団地～海向山～楢法華支所前）
- 下海岸線③（9 1 F 系統）
（日ノ浜団地～恵山御崎）



停留所別乗降データ(単位:人)

調査日:平成30年9月14日(金)

運行系統名	起 点	経 由	終 点	キロ程	運行回数
下海岸線② (91E系統)	日ノ浜団地	海向山	楸法華支所前	7.5	2.0

停留所 連番号	停留所名	10:46発			13:00発			15:01発			18:04発			合 計		
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過
1	日ノ浜団地				2			1						3		
2	絵紙山						2			1						3
3	海向山					1	2			1					1	3
4	楸法華小学校前						1			1						2
5	楸法華支所前					1	1		1	1					2	2
合 計					2	2		1	1					3	3	

運行系統名	起 点	経 由	終 点	キロ程	運行回数
下海岸線② (91E系統)	楸法華支所前	海向山	日ノ浜団地	7.5	1.5

停留所 連番号	停留所名	10:22発			14:44発			18:21発			合 計		
		乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過
1	楸法華支所前	1			1						2		
2	楸法華小学校前			1			1						2
3	海向山			1			1						2
4	絵紙山			1			1						2
5	日ノ浜団地		1	1		1	1					2	2
合 計		1	1		1	1					2	2	

停留所別乗降データ（単位：人）

調査日：平成30年9月14日（金）

運行系統名	起 点	経 由	終 点	キロ程	運行回数
下海岸線③ (91F系統)	日ノ浜団地	古武井	恵山御崎	6.3	0.5

停留所 連番号	停留所名	8:00発		
		乗車	降車	通過
1	日ノ浜団地			
2	恵山支所前			
3	古武井漁組前			
4	古武井			
5	東古武井			
6	恵山築港			
7	恵山中学校前			
8	恵山登山口			
9	恵山			
10	七つ岩			
11	上御崎			
12	恵山御崎			
合 計		0	0	

運行系統名	起 点	経 由	終 点	キロ程	運行回数
下海岸線③ (91F系統)	恵山御崎	古武井	日ノ浜団地	6.3	0.5

停留所 連番号	停留所名	18:25発		
		乗車	降車	通過
1	日ノ浜団地	1		
2	恵山支所前			1
3	古武井漁組前			1
4	古武井			1
5	東古武井			1
6	恵山築港			1
7	恵山中学校前			1
8	恵山登山口			1
9	恵山			1
10	七つ岩			1
11	上御崎			1
12	恵山御崎		1	
合 計		1	1	

I 改善計画案（事業者が記載）

1 路線の概要

路線名：鹿部海岸線②（224系統）（運行実績期間：H29.10～H30.9）

運行系統					運行ダイヤ				
起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	実車走行 キロ (km)
南茅部 支所前	川 汲	古 部	15.7	640	17:53 17:22	—	28	0.9	11,398.2

輸送実績		経常費用 (円)	経常収益 (円)	費用－収益 (円)	補助見込額
平均乗車 密度	輸送量	(A)	(B)	(A)－(B)	(千円)
2.3	2.0	3,298,525	1,462,077	1,836,448	限度額 1,484,000

資料：運行系統図

2 路線の収支および補助額の推移（過去3カ年）

区 分	前々年度	前年度	当年度
経常費用 (A) (円)	3,144,056	3,209,660	3,298,525
経常収益 (B) (円)	1,455,368	1,453,784	1,462,077
(A)－(B) (円)	1,688,688	1,755,876	1,836,448
補助金額 (千円)	1,414,000	1,444,000	1,484,000
運行実績期間	H27.10～H28.9	H28.10～H29.9	H29.10～H30.9

3 路線の維持、必要性の検討

(1) 代替性

- ① 重複および近接する路線
- 有 ・ (無) → (2) 機能性・需要量へ
- ② 重複および近接する路線の概要

路線名	運行系統					運行ダイヤ				輸送実績	
	起点	主な 経由地	終点	キロ程 (km)	運賃 (円)	始発時刻	終発時刻	所要時間	運行回数 (平均)	平均乗車 密度	輸送量

(2) 機能性・需要量

- ① 路線沿線の施設（学校、病院、公共施設、商業施設等）
- (有) ・ 無 → (3) 地域振興へ
- ② 路線沿線の主な施設

南茅部支所・尾札部中学校・磨光小学校・南茅部高校

③ 平均乗車密度の推移（過去3カ年）(人)

区 分	前々年度	前年度	当年度
平均乗車密度	2.3	2.3	2.3
運行実績期間	H27.10～H28.9	H28.10～H29.9	H29.10～H30.9

資料：停留所別乗降データ（調査日：平成30年9月14日）

(3) 地域振興

- 戸井支所、恵山支所、椴法華支所、南茅部支所の所管区域の經由
- (有) ・ 無

4 収支改善のための具体的な方策

(戸井支所、恵山支所、榎法華支所、南茅部支所の所管区域を経由する路線については必要に応じて記載。)

○東部地区の病院バス・温泉バス等の路線バス化については、函館市が策定を予定している地域公共交通再編実施計画の中で検討が進められることとなっている。

<利用促進策として>

- ①平成30年4月より、既存の定期券がICAS nimoca(ICカード)を利用したものに切り替わるにあたり、新聞折込のタブロイド誌発行のほか、学校等関係機関への周知活動を図り利用促進を図った。引き続きICAS nimocaの地域に対する周知活動は継続していく。
- ②函館市の交通料金助成制度が平成30年4月より、ICAS nimocaを利用した制度へ移行するにあたり、函館市と協力し、地域への説明会及びICAS nimocaの販売を実施した。
- ③夏休み・冬休み期間中、1乗車につき小学生は50円、中学生は100円で利用できる乗車券「バス冒険キング」の適用範囲を従来の函館市内限定から、平成29年冬休みより、函館市・北斗市・七飯町・鹿部町へと拡大しさらなる利便性向上を図った。
- ④北海道新幹線新駅沿線協議会(函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・JR北海道・函館市企業局・津軽海峡フェリー・函館バス)発案の『はこだて旅するバスポート』(JR・函館市電・道南いさりび鉄道・函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・木古内町管内の路線バスが2日間乗り放題の共通フリー乗車券 ※津軽海峡フェリーはバスポートを提示すると20%割引)を販売し、観光客のバス利用の促進を図っている。平成30年4月からは利用期間がこれまでの2日間用に加え、新たに1日間用の乗車券も販売開始しさらなる利用者の利便性の向上を図った。
なお、『はこだて旅するバスポート』のパンフレットには、東部地区の路線バスで行くモデルコースも掲載されている。
- ⑤外国人の利用促進策として、アジア向け観光ウェブサイト「悠々北海道」に路線バス情報を発信しているほか、上記に記載のとおり全国共通ICカードシステムを導入した。さらに平成30年3月には、新たに英語対応ができるバスロケーションシステム(バスの接近情報がわかるシステム)に更新しさらなる利便性向上を図った。なお、新たなバスロケーションシステムは、すべてのスマートフォンで見やすく表示できるよう対応し、さらに、函館バス同士での1回乗継ぎが発生する場合の接近情報も見ることが可能となっている。
- ⑥平成31年2月より、道内19社共同で外国人観光客に向けた『北海道バジェットバスパス』が販売される。道内広域で高速バスを含めた指定路線バスが乗り放題となり3日間用と5日間用がある。当路線でも使用することができ外国人観光客の利便性の向上を高める。
- ⑦公共交通網の構築の実現に向けたバス路線網再編の一環として、系統番号の見直しを平成31年4月に実施する。方面別で法則性のある番号がこれまで系統番号のなかった系統を含めすべての系統に振られる。このことによりバスの番号を見るだけで方面がわかり外国人観光客へも番号でバスを案内できるようになる等利便性の向上が図られる。

改善しない場合の理由

()

II 函館市生活交通協議会における協議 (市が記載)

① 収支改善のための具体的な方策への意見等

② 路線維持・補助の必要性について

必要性 有 ・ 無



()

III 改善計画 (事業者が記載)

① 函館市生活交通協議会の意見に対する事業者の検討結果

② 実施日

(

)



停留所別乗降データ（単位：人）

調査日：平成30年9月14日（金）

運行系統名	起 点	経 由	終 点	キロ程	運行回数
鹿部海岸線② （224系統）	南茅部支所前	尾札部	古 部	15.7	0.5

停留所 連番号	停留所名	17:53発		
		乗車	降車	通過
1	南茅部支所前	6		
2	川汲			6
3	宮前			6
4	清水			6
5	谷地町			6
6	岬		2	6
7	磨光			4
8	磨光小学校前			4
9	著保内			4
10	後駒			4
11	尾札部会館		1	4
12	尾札部			3
13	尾札部郵便局前			3
14	尾札部中学校前			3
15	上見日			3
16	見日			3
17	下見日			3
18	島歌			3
19	汀浦			3
20	ボン木直		1	3
21	ピリカ浜			2
22	木直		1	2
23	割石			1
24	白井川		1	1
25	大槻			
26	立岩			
27	古 部			
合 計		6	6	

運行系統名	起 点	経 由	終 点	キロ程	運行回数
鹿部海岸線② （224系統）	古 部	尾札部	南茅部支所前	15.7	0.5

停留所 連番号	停留所名	17:22発		
		乗車	降車	通過
1	古 部			
2	立岩			
3	大槻			
4	白井川			
5	割石			
6	木直	1		
7	ピリカ浜			1
8	ボン木直			1
9	汀浦			1
10	島歌			1
11	下見日			1
12	見日			1
13	上見日			1
14	尾札部中学校前			1
15	尾札部郵便局前			1
16	尾札部			1
17	尾札部会館			1
18	後駒			1
19	著保内			1
20	磨光小学校前			1
21	磨光			1
22	岬			1
23	谷地町			1
24	清水			1
25	宮前			1
26	川汲			1
27	南茅部支所前		1	1
合 計		1	1	